# 令和４年度　第１回龍ケ崎市いじめ問題対策連絡協議会要項

令和４年７月７日（木）14:00～
於　龍ケ崎市役所５階第１委員会室

進行：事務局（教育センター　稲垣）

１　開　会

２　教育長あいさつ

３　委嘱状（任命書）交付

４　委員等出席者自己紹介

５　協　議（進行：会長　記録：事務局）

(1) 令和３年度のいじめの認知件数について

(2) 講　話
「SNS 社会におけるいじめの対策、匿名報告相談アプリ『STANDBY』の効果について」
講師　スタンドバイ株式会社代表　谷山　大三郎　様

(3) 質疑応答

(4) その他
・第２回龍ケ崎市いじめ問題対策連絡協議会
令和５年３月１０日（金）14:00～
於　龍ケ崎市役所５階第１委員会室

６　閉　会

# 龍ケ崎市教育センターにおけるいじめに関する取組

１　令和３年度いじめ認知件数（令和３年４月～令和４年３月）

○小学校１２０件（うち解消１０７件，支援・見守り継続中１３件）

○中学校１１１件（うち解消１０４件，支援・見守り継続中　７件）

小学校では「ひやかしやからかい，悪口等」が多く，中学校では「ＳＮＳでのトラブル」が急増している。

２　相談事業

(1) 教育相談員による相談（令和３年４月～令和４年３月）　※延べ人数

| | 不登校 | 学校生活・集団不適応 | 対人行動 | いじめ | 学業進路 | 教師 | 家庭 | 障害発達 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 来所相談 | 1248 | 208 | 147 | 9 | 0 | 2 | 24 | 60 | 20 |
| 適応指導 | 1616 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 家庭訪問 | 47 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 学校訪問 | 164 | 14 | 133 | 2 | 0 | 0 | 0 | 12 | 7 |
| 電話相談 | 588 | 46 | 97 | 0 | 0 | 3 | 3 | 17 | 20 |
| 他機関と連携 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 計 | 3669 | 272 | 385 | 11 | 0 | 5 | 27 | 89 | 48 |

(2) ＳＮＳ相談事業

いじめをはじめ，生徒の様々な相談の窓口を広げ，きめ細かい対応ができるようにした。

○アクセス件数　２６件

○相談内容（内訳）

| 内　容 | 件 |
|---|---|
| 人間関係・友人関係 | 1 |
| いじめ | 1 |
| 自殺念慮 | 0 |
| 部活動 | 0 |
| 勉強 | 0 |
| 学校生活，自身の生活 | 2 |
| 家族・親 | 4 |
| 自分のこと | 2 |
| 挨拶等 | １６ |

(3) 相談員派遣事業

○龍の子さわやか相談員派遣事業

市内　６中学校に　７名を派遣　　各校／週４日／１日５時間

市内１１小学校に１４名を派遣　　各校／週１～２日／１日４時間

○市スクールソーシャルワーカー派遣事業　　派遣校数１４校

○県スクールカウンセラー派遣事業　　市内全小中学校　５名

２　啓発事業

(1) 脱いじめ傍観者プログラムの実施（令和元年度から継続して実施）

○市内全中学校１年生を対象に，スタンドバイ株式会社より講師を招聘して授業を行った。

〈ねらい〉

・いじめの問題を早期に解決するためには，被害者・加害者以外の児童生徒が観衆・傍観者の立場にとどまらず，被害者が加害者に声をかけたり，いじめが行われている雰囲気を変えたり，誰かに相談したりといった，何らかの行動をとることが重要だということを理解する。

・一人一人がいじめを止める行動をとれるかどうかは，クラスの雰囲気が関わってくることを理解し，一人一人の日常の態度がいじめの予防や解決に関係していることを理解する。

(2) 茨城県スクールロイヤーによる出前授業

県スクールロイヤー活用事業に申込み，中根台中学校において，「いじめ予防に関する授業」を実施した。

・第１学年を対象に全クラスで実施

・弁護士により，「人権の大切さ」や「事例をもとにいじめは絶対に許されない」ことを学ぶ。

・成果（学校からの報告）

・「いじめは絶対に許されない」という意識が一層高まった。

・「やられたらやり返す」という行為を繰り返しても，問題の解決にはならないことに気付くことができた。

・自分だけの基準で全てを判断するのは危険なことだと気付くことができた。

・いじめの傍観者になるのではなく，みんなの力でいじめをなくしていこうとする意識をもつことができた。

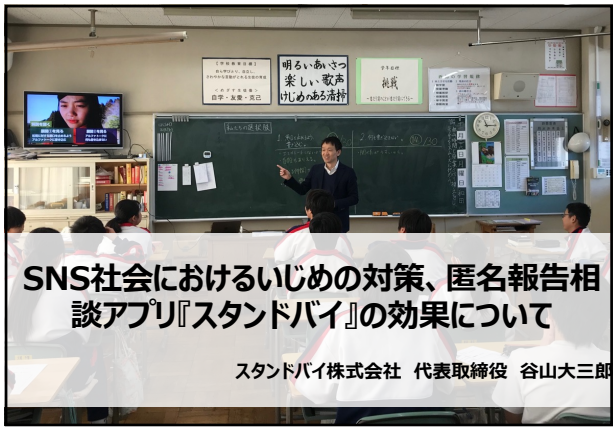
(3) 生徒指導連絡会（研修会）の開催

教頭及び生徒指導主事に対し，いじめ防止対策推進法についての研修を行った。特に，いじめの定義や対応については，十分に説明を行った。いじめ認知に関しては，定義に従い，被害児童生徒が苦痛を感じていたり，感じていると認められるもの，その訴えがあったりしたものはすべて認知するように伝え，「軽微な事案」や「芽」，「兆候」も定義に従い認知するように確認した。さらに，教頭に対しては，いじめ問題の早期対応の重要さ及び重大事態の扱いについて説明した。

(4) 教育相談窓口の周知等

・龍ケ崎市の相談窓口案内や，「いばらき子どもＳＮＳ相談」案内チラシを配付し，児童生徒や保護者に対して相談窓口を周知した。

・専門家を必要とする相談が必要となった場合は，本センターのカウンセラー資格や公認心理師を，迅速に派遣できるようにした。



# SNS社会におけるいじめの対策、匿名報告相談アプリ『スタンドバイ』の効果について

スタンドバイ株式会社　代表取締役　谷山大三郎

0

自己紹介及び取り組み概要

## スタンドバイ株式会社

代表取締役　**谷山 大三郎**

1982 年12 月生まれ。富山県出身。千葉大学教育学部卒業、千葉大学大学院教育学研究科修了後、2008 年より株式会社リクルートに勤務（営業、事業推進、人事を担当）し、2015 年に退職。現在、スタンドバイ株式会社代表取締役、一般社団法人standbyyou代表理事、千葉大学教育学部附属教員養成開発センター特別研究員等務める。

✓ メディア掲載

毎日新聞　NIKKEI　AERA　読売新聞　NHK NEWS WEB

✓ 取り組みに参画

総務省　文部科学省

2015年10月9日設立

103-0004
東京都中央区東日本橋2-1-15
STR東日本橋 4F
050-3754-4595

info@standby-corp.jp
www.standby-corp.jp

Copyright © STANDBY Co., Ltd. All Rights Reserved.

1

相談窓口の設置だけでなく

## いじめの抑止から問題解決まで実現

被害者も傍観者も、SOS の出し方を考える

**SOSの出し方教育**

専任講師が
現地もしくはオンラインで
授業を実施

年間300回以上実施

匿名でSOS を出せる、解決してくれる人とつながる

**STANDBY**

個人の端末だけでなく、
学校で配布される一人一台
端末を活用し、
すべての子どもがSOS をどこでも出せる環境をつくる

自分も先生も気が付く、心の健康観察

**シャボテンログ**

自分の悩みを言語化できない
子どもがSOSを
出せるようになり、
周囲の大人が早く気づく

Copyright © STANDBY Co., Ltd. All Rights Reserved.

2

## 助けたい人を助けられる社会をつくる

3

## 電話やメールよりも約10倍以上の相談件数

平成29年度STOPit、電話、メール別相談件数
（2017年度千葉県柏市様での実績 ）

| 電話 | メール | STOPit |
|---|---|---|
| 12 | 3 | 133 |

出典: 国立大学法人 千葉大学 2018/05/10
平成29年度度官学連携によるいじめ防止対策事業の実施結果報告～柏市での「脱いじめ傍観者教育」及び匿名報告相談アプリ「STOPit」の取り組み～

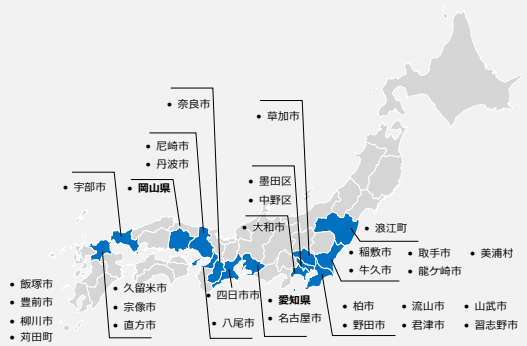
4

## 5年間で約1,000校に導入

| | 事業開始 | 現在 |
|---|---|---|
| | 2017 年度 | 2022 年度 |
| 学校数 | 36 校 | 1072校 |

5

## 全国にて協働を実施




6

## SNS社会におけるいじめの対策

7

## なぜいじめをしてはいけないのか

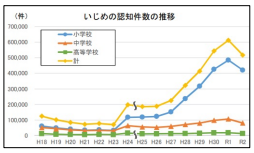
- ✓ **頻繁にいじめの被害にあっている子どもは、そうでない子どもより、学校の欠席が増え、学校で居場所がないと感じ、学業成績の低下が見られる（UNESCO,2019）**
- ✓ **学齢期において頻繁にいじめ被害にあうことが、生涯にわたって悪影響を及ぼす**
  **（Takizawa R, Maughan B & Arseneault L, 2014）**
  - ✓ 7歳と11歳の時にいじめにあっていたと親によって報告された者たちは、45歳の時点で、自殺傾向を有していたり、うつ病、不安障害、アルコール依存の診断をもつ傾向が高かった。
  - ✓ より頻繁にいじめにあっていた者は、そうでない者に比べ、オッズ比で1.95倍抑うつ病になるリスクが高く、また不安障害が1.65倍、自殺傾向が2.21倍高くなることが明らかになっている。

**いじめの影響は**
**長期にわたる**

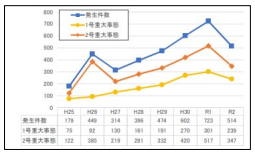
8

## いじめ認知件数と重大事態件数の推移

- 小・中・高等学校及び特別支援学校における**いじめの認知件数は517,163件（前年度612,496件）**であり，前年度に比べ95,333件（15.6%）減少。
- いじめの**重大事態の件数は514件（前年度723件）**であり，前年度に比べ209件（28.9%）減少。




○いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する「重大事態」の発生件数

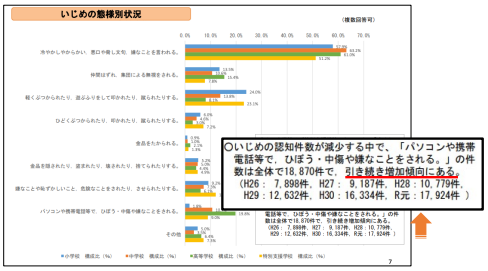



| | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発生件数 | 178 | 448 | 314 | 396 | 474 | 692 | 723 | 514 |
| 1号重大事態 | 75 | 92 | 130 | 161 | 191 | 270 | 301 | 239 |
| 2号重大事態 | 122 | 385 | 219 | 281 | 332 | 420 | 517 | 347 |

令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要　文部科学省
https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf

9

## いじめの態様別状況

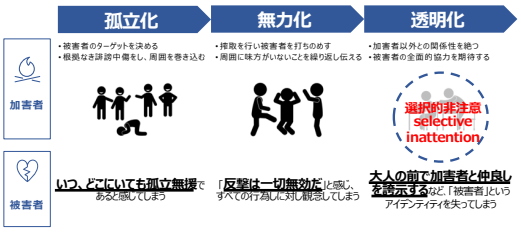



令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要　文部科学省
https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf

10

## いじめはなぜ深刻化するのか

### いじめと人間奴隷化のプロセスは同じである

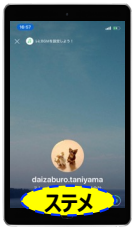



参考文献：「いじめのある世界に生きる君たちへ ―いじめられっ子だった精神科医の贈る言葉―」
中井久夫 / 中央公論新社（2016年12月10日）

11

## 証拠が残らないいじめ

### ステメ（ステータスメッセージ）によるいじめ例




- 「テスト期間。LINE禁止中」
- 「○○の曲、好き！」

- 「仲良し3人でカラオケ」
- 「ゴリラ」

**早期発見が難しい**

12

## なぜいじめは起きるのか

- いじめや、不当な差別、他者の人権をないがしろにするような行為
→良くない…とみんな分かっているはずなのに、なぜいじめは起こるのか？

- **「認知の歪み」「道徳不活性化」**（Bandura1999など）
→いじめ行為の正当化、責任の転嫁、結果の矮小化、非人間化、都合のよい比較、非難の帰属、等をしてしまう。

- **「空気」「ノリ」**（内藤2012など）
→いじめを是とするような集団の空気・ノリにはあらがい難い。

**学校と社会をつなぐ・風通しをよくする**

13

相談窓口の設置だけでなく

## いじめの抑止から問題解決まで実現

被害者も傍観者も、SOS の出し方を考える

**SOSの出し方教育**

専任講師が
現地もしくはオンラインで
授業を実施

年間300回以上実施

匿名でSOS を出せる、解決してくれる人とつながる

**STANDBY**

個人の端末だけでなく、
学校で配布される一人一台
端末を活用し、
すべての子どもがSOS をどこでも出せる環境をつくる

自分も先生も気が付く、心の健康観察

**シャボテンログ**

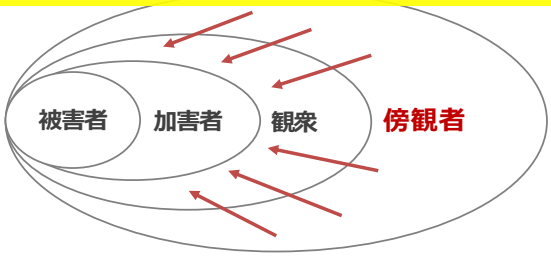
自分の悩みを言語化できない
子どもがSOSを
出せるようになり、
周囲の大人が早く気づく

Copyright © STANDBY Co., Ltd. All Rights Reserved.

14

## いじめ集団の四層構造

**認知の歪みを是正する**




(出典)『新訂版いじめ-教室の病(金子書房)』(森田洋司著・清永賢二著)
＊赤矢印は谷山が追記

15

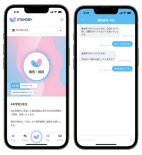
## 匿名報告相談アプリ『スタンドバイ』の効果について

16

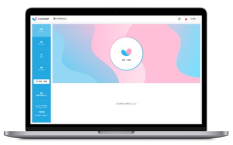
児童生徒向け

## STANDBY ( スマホ・パソコン・GIGA 端末)

スマホ・タブレット向け
モバイルアプリ
- iOS / Android 版 -



パソコン向け
WEB アプリ
- ブラウザ版 -

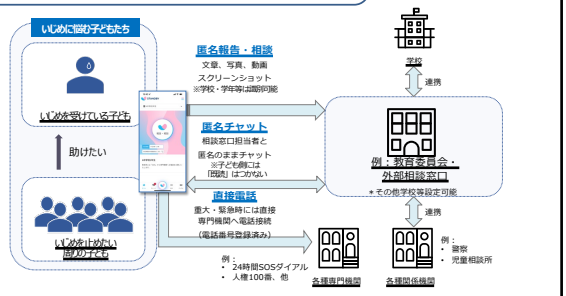


「GIGA 端末」＝ 文科省のGIGA スクール構想により、学校から児童生徒ひとりひとりに配布されるタブレットやパソコンなどの端末

Copyright © STANDBY Co., Ltd. All Rights Reserved.

17

## 報告・相談の一般的な流れ

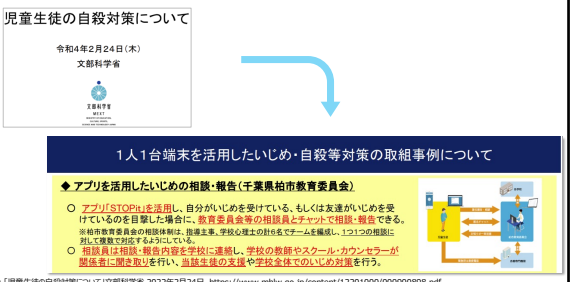



Copyright © STANDBY Co., Ltd. All Rights Reserved. 18

18

文部科学省による当社事例紹介

## 児童生徒の自殺対策について




出典：「児童生徒の自殺対策について」文部科学省 2022年2月24日 https://www.mhlw.go.jp/content/12201000/000900898.pdf

Copyright © STANDBY Co., Ltd. All Rights Reserved. 19

19

導入の経緯・効果

## 導入事例と成果

**いじめ被害を相談できない子がいることに課題感**を持っていた同市は、相談窓口を拡大しカウンセリングでの問題察知を目的に導入

| 未然防止 | 早期発見 | 対応 |
|---|---|---|
| • **いじめの抑止力**として、生徒の意識が向上した実感<br>– “いじめ傍観者授業によって生徒・教員共にいじめへの意識が向上し、問題を察知報告する姿勢が付いている”<br>– “教員が問題を見過ごさないための抑止力にもなっている” | • いじめ相談の窓口として、**従来相談窓口の9倍の相談件数**<br>– 電話・メール相談の際は15件だった相談が、133件にまで増加<br>– “相談できない子の人数が減った実感がある”<br>• **傍観者相談機能として、第三者からのいじめ報告が増加**<br>– 全中学1年生向けに、脱いじめ傍観者授業を実施。その効果として、傍観者相談率48%を記録<br>– “今までなかった傍観者からの相談が年々増えており、声をあげられない子を救えている実感がある” | • **介入機能**として、**重大事態の問題解決**に繋がった<br>– 導入して数か月経った頃、突然生徒から死にたいとのチャット<br>– 数時間やりとりをして危機感を感じた職員が、**生徒を特定し詳細聞き取り**。当時の担任との折り合いの悪さから**元担任に連絡を取り**、生徒の状況を改善するための対応をしてもらう<br>– 教育委員会と長期に渡る対応の結果、**生徒は高校に進学** |

出典：SB顧客データ

Copyright © STANDBY Co., Ltd. All Rights Reserved. 20

20

## 利用自治体の声

A市教委ご担当者様

**① 相談・報告者の学校、学年がわかる**
チャット相談だけで相談者のやりとりを終えてしまうと、相談してくれた子どもが一時的にチャット内で悩みを解決したかのように見えるが、例えば学校でいじめられている場合次の日またいじめられてしまう。STOPitは、学校、学年がわかるため、問題がどこで起こっているか把握しやすく問題解決まで行いやすい設計がされている。

B市教委ご担当者様

**② 報告・相談専用アプリである**
普段使用しているSNSでいじめを受けている子どもは、そのSNSを開くことすら苦痛であるため、相談ができない可能性が考えられる。STOPitは相談専用アプリであるため、児童生徒は安心して利用することができる。

C市教委ご担当者様

**③ 一人一台端末への登録も含めたいじめ防止啓発授業が行われる**
SNS相談は重要なものであるが、子どもが抱える悩みや問題の根本的な解決にならない。STOPitは、予防の観点からいじめ防止啓発授業や講演を行っている。さらに授業や講演内で、一人一台端末を使ったSTOPit登録の取り組みを行うので、すべての子どもたちが相談できる環境をつくることができる。

Copyright © STANDBY Co., Ltd. All Rights Reserved. 21

21

## STANDBYの効果 –定量データ-

| 数年で急増 | 登録率 | 傍観者相談率 | 対面で介入した率 |
|---|---|---|---|
| 約9倍 | 90% | 50% | 3人に1人 |

Copyright © STANDBY Co., Ltd. All Rights Reserved. 22

22

## いじめの発見経路

| 区分 | 2020年度(件数) | 2011年度(件数) | 増加比率 |
|---|---|---|---|
| アンケート調査等 | 286,392 | 19,846 | 14.4 |
| 本人からの訴え | 91,011 | 16,418 | 5.5 |
| 学級担任が発見 | 49,737 | 12,704 | 3.9 |
| 本人の保護者からの訴え | 52,457 | 11,582 | 4.5 |
| 本人以外の見聞全徒からの情報 | 17,079 | 3,566 | 4.8 |
| 学級担任、部顧問教諭、スクールカウンセラー等以外の教職員が発見 | 10,482 | 2,886 | 3.6 |
| 本人以外の保護者からの情報 | 6,268 | 2,113 | 3.0 |
| 部顧問教諭が発見 | 1,627 | 518 | 3.1 |
| スクールカウンセラー等の相談員が発見 | 774 | 208 | 3.7 |

令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要 文部科学省
https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf

Copyright © STANDBY Co., Ltd. All Rights Reserved. 23

23